

故白杉庄一郎教授 略歴・主要著作目録

略 歴

明治四二年一月二四日 京都府与謝郡市場村（現野田川町）字幾地一五五九に白杉文右衛門・うたの長男

として生まれる。

大正五年四月 市場村尋常高等小学校に入学。

大正一一年三月 同校尋常科卒業。同年四月、京都府立宮津中学校に入学。

昭和二年三月 同中学校卒業。

昭和三年四月 京都府師範学校本科第二部に入学。

昭和四年三月 同校卒業。同年四月、京都帝国大学経済学部選科に入学。

昭和五年七月 同大学同学部本科に編入。

昭和七年三月 京都帝国大学経済学部卒業。同年四月、京都帝国大学大学院に入学。石川興二

教授について経済学史を専攻する。

昭和九年三月 京都帝国大学大学院を退学。同年四月、京都帝国大学経済学部講師を嘱託され

る。

昭和一五年 一月 京都帝国大学助教授に任ぜられる。経済学史担当。

昭和二一年 一二月 京都大学助教授を依願退職する。

昭和二二年 六月 彦根経済専門学校教授に補せられる。

昭和二四年 六月 滋賀大学教授に補せられる。経済学史担当。

昭和二七年 七月 京都大学より経済学博士の学位を授与される。(学位論文、『近世西洋経済史研究

序説』)

昭和二九年 五月 経済学史学会幹事に選出される。以来、四選されて昭和三六年に及ぶ。

昭和三五年 三月 滋賀大学を依願退職する。同年四月、立命館大学教授に任ぜられる。経済原論

担当。同年七月、立命館大学評議員に選出される。

昭和三六年六月二五日 京都府立医科大学付属病院において狭心症のため逝去。同日、正四位に叙せら

れ勲四等瑞宝章を下賜される。(法名、智徳院禪覚正量居士)

主要著作目録

著書

国民経済学 研究	弘文堂	昭和一四年
近世西洋経済史研究序説	有斐閣	昭和二五年
絶対主義論 批判	三一書房	昭和二五年
資本主義成立史の原型(第一分冊)	有斐閣	昭和二七年
価値の理論	ミネルヴァ書房	昭和三〇年
経済学史 概説	ミネルヴァ書房	昭和三一年
絶対主義論	日本評論新社	昭和三二年
独占理論の研究	ミネルヴァ書房	昭和三六年

論文 (*は著書に収録 中評その他の小論は割愛)

アダム・スミスに於ける経済史観	経済論叢	三六ノ六	昭八・六
アリストテレスの価値論	経済論叢	三七ノ七	昭八・一二
アダム・スミスの廣備即豊富論	経済論叢	三九ノ二	昭九・八

* ロッシャーの歴史的方法	経済論叢	四〇ノ一	昭一〇・一
* ロッシャーに於ける国民経済の意義	経済論叢	四〇ノ五	昭一〇・五
* 万民経済学と国民経済学	経済論叢	四一ノ四、五	昭一〇・一〇、一一
都市と農村との対立に関するアダム・スミスの見解	経済論叢	四二ノ一	昭一一・一
* ヒルデブランドに於ける国民経済学の課題	経済論叢	四三ノ三、四	昭一一・九、一〇
* 全体主義的国民経済学の基礎理論	経済論叢	四四ノ四	昭一二・四
* リストの国民生産力説	経済論叢	四四ノ五	昭一二・五
* シュモラーの国民経済学方法論	経済論叢	四六ノ一	昭一三・一
* カール・メンガーの歴史学派批判	経済論叢	四七ノ三	昭一三・九
* カール・メンガーの社会政策学派批判	経済論叢	四七ノ四	昭一三・一〇
* 歴史学派に於ける国民経済の概念	経済論叢	四八ノ一	昭一四・一
* マックス・ウェーバーの国民主義	経済論叢	四九ノ一	昭一四・七
『道徳情操論』の研究	経済論叢	五〇ノ六	昭一五・六
アダム・スミスに於ける正義の観念	経済論叢	五一ノ五	昭一五・一一
アダム・スミスの自然的自由	経済論叢	五二ノ四	昭一六・四
アダム・スミスに於ける愛国心と人類愛	経済論叢	五三ノ一	昭一六・七
個人主義経済倫理の批判	経済論叢	五三ノ四	昭一六・一〇
マルサス『人口論』の形而上学的基础	経済論叢	五四ノ二	昭一七・二

マルサス『人口論』の倫理学的基礎	経済論叢	五四ノ四	昭一七・四
マルサス『人口論』の人間観的基礎	経済論叢	五五ノ二	昭一七・八
第一次大英帝国の崩壊とアダム・スミス	経済論叢	五五ノ六	昭一七・一二
トーマス・マンの『財宝論』	経済論叢	五六ノ三	昭一八・三
ペッテイの『租税論』	経済論叢	五六ノ六	昭一八・六
ペッテイの経済理論	経済論叢	五七ノ一、二	昭一八・七、八
ペッテイの政治算術論	経済論叢	五七ノ四	昭一八・一〇
ホップスの経済思想	経済論叢	五八ノ一・二	昭一九・二
ホップスと重商主義	経済論叢	五八ノ三	昭一九・三
ロツクの財産論	経済論叢	五九ノ一	昭一九・七
近代資本主義の成立と商業	彦根経專論叢	復刊一	昭三三・一二
*講座派絶対主義論の再検討	国民経済	四ノ九	昭三四・九
*重商主義と近世国家の成立	彦根論叢	一	昭三四・一二
所謂『前期的商業資本』の無概念性	彦根論叢	四	昭三六・一
ジョサイヤ・チャイルドの貿易論	彦根論叢	五、六	昭三六・六、九
チャールズ・デアヴナントの貿易論	彦根論叢	九	昭三七・四
*重商主義	出口勇藏編『経済学史』		昭三八・一
*歴史学派	出口勇藏編『経済学史』		昭三八・一
ジョン・ロツクの経済思想	彦根論叢	一二	昭三八・三

ビュリタン革命と商業ブルジョアジー	彦根論叢	一四	昭二八・七
名譽革命と商業ブルジョアジー	彦根論叢	一九	昭二九・五
名譽革命以後のイギリス重商主義	彦根論叢	二一	昭二九・九
理論経済学の方法についての一つの覚書	彦根論叢	二五	昭三〇・五
テューダー時代の冒険商人組合	彦根論叢	二八	昭三〇・一
歴史派経済学	河出書房『経済学説全集』第五卷		昭三一・六
アダム・スミスの市民社会成立史論	『堀経夫博士還暦記念論文集』		昭三一・九
イギリス重商主義の特色	彦根論叢	三四	昭三一・一二
講座・経済学史(重商主義、重農主義、古典経済学)	経済セミナー	一〇五	昭三三・四〇八
イギリスの初期資本主義成立史上における冒険商人組合問題	彦根論叢	三七	昭三三・五
*独占資本主義のもとでの剰余価値の法則	経済論叢	八〇ノ四	昭三三・一〇
オールダマン・コケイン計画	彦根論叢	四〇	昭三三・一二
*独占利潤の源泉について	彦根論叢	四三	昭三三・五
*オートメーションと剰余価値の法則	彦根論叢	四六・四七	昭三三・九
*独占と産業技術の進歩	彦根論叢	四八・四九	昭三三・一〇
*シムムベーターの独占理論	彦根論叢	五三	昭三四・三
*ドラッカーの独占論	彦根論叢	五六	昭三四・七
*ギャルブレイスの独占論	彦根論叢	五九・六〇・六一	昭三四・一〇

*ギヤルブレイスの対抗力理論	彦根論叢	六二	昭三四・一二
*独占資本主義と価値法則	経済評論	九ノ三	昭三五・二
*ふたたび独占資本主義のもとでの剰余価値の法則について	経済論叢	八五ノ二	昭三五・二
*特別剰余価値と虚偽の社会的価値	彦根論叢	六五・六六・六七	昭三五・六
*超過利潤と差額地代	立命館経済学	九ノ一	昭三五・一〇
差額地代にかんする平均説	彦根論叢	七〇・七一・七二	昭三五・一〇
差額地代にかんする剰余生産物説	立命館経済学	九ノ五	昭三五・一二
歴史学派 <small>(ロンシャール、クニース、 シュモラー、ビュヒャー)</small>	堀経夫編『原典経済学史』上		昭三六・五